小田原大火復興グラフ

↑ 焼跡の復興全景

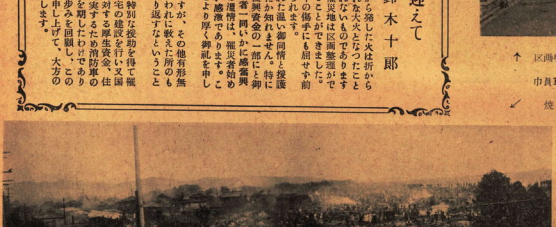
小田原大火一周年を迎えて

小田原市長　鈴木十郎

昨年十一月二十八日、市内万年町の一角から発した大火は折から の強風にあおられ、本市にとつて近年まれな大火となつた訳ですが、 は、未だわれわれの胸裏に焼きついて離れないものであります。 大火後早くも一年、写真で御覧の通りに罹災地は区画整理ができ て家並も整然と防火的に立所を得て前年の惨状とは隔せた前 途に明るい希望を抱いて日々励まされております。 罹災者の方々も今はそれぞれ所を得て前年の傷手にも屈せず前 とのご復興において、全国各地から寄せられた温い御同情と援護 に、われわれはどれ程感謝し激励されたか知れません。特に 内閣官房長官御一行にお越せられ、また国庫資金の一部にと御 起れたことでありましょう。これが世の復興情はいつ迄続くか 金市民の何時までも忘れることのできない感慨であります。 ことに大火一周年を迎えるに当つて再び衷心より厚く御礼を申し 上げる次第であります。

小田原大火の損害は約二億円と想定されますが、その他有形無 形の損害を考えますと、この大火がわれわれに与えた所のもの は、今後何びとのような大火を繰り返すまいということ で、ひも市民に訴えておきたいと思います。

災地の区画整理と共に復興資産住宅の建設等の計画を得て復 民金融公庫、住宅金融公庫等より復興資生資金、住 宅資金の貸出を受けると共に、消防防災の改組等大災復興対策に万全を期しわけであり ます。ここに小田原大後一年間の復興の歩みを回顧し、この ように発々と復興しつつあることを御報告申し上げて、大方の 御同情御援助に対する御礼の御挨拶といたします。



↑ 区画整理により焼失地域を縦貫する
市員11米の幹線街路

↙ 焼跡の全景

小田原大火

1、発火認知日時　昭和26年11月28日午前1時50分、小田原市消防署望楼で発見、火災発生はこれより10分前と推定さる。
2、鎮火日時　昭和26年11月28日午前4時34分。
3、焼失建物　全半焼合せて292棟、他に焼船2隻全焼。
4、焼失区域　8.400坪。
5、罹災世帯及び人員321世帯1.479名、他に準罹災世帯65世帯。
6、死傷者　死者、重傷者なし（但し手伝人急病死1名）
7、損害　約2億円。

罹災者に対する特別融資

罹災者に対する特別融資については、厚生省、住宅金融公庫及び住宅

金融公庫等全陳情の結果、厚生資金、普通資金合せて六七件、計三八〇万円、住宅資金一件、三五九六千円の貸付を受けることができた。

義捐金、見舞金及び救恤品

小田原大火の報一度伝わるや、早くもその朝には県、日赤を始め各地各方面の方々から、救恤品、義捐金、見舞金が続々として贈られ、温い世の情けは引続き大火のあった年末に引如に、義捐金、救恤品の配分については、本年三月末に迄迅速に配分を終了した。

義捐金　七、七三二、一七〇円
○市に対する見舞金　一、一六〇、四六七円四五五
○一般救恤品　八、二五一点
○災害救助物資　四、八六一九点

義捐者に対する表彰は、本年三月末をもつて完了した。

義捐者の厚意を体して迅速次第に配分を行い、本年三月末をもつて完了した。

救恤品の総量は次の通り

金融公庫等全陳情の結果、厚生資金、普通資金合せて六七件、計三八〇万円、住宅資金一件、三五九六千円の貸付を受けることができた。

↑ 婦人会その他の応援によつて山のような見舞の品が整理され記給されていつた。

小田原大火復興特集

火災復興区画整理

火災後、直ちに、災害対策計画を樹立して現地に植樹し、新道路敷内の建築を禁ずる旨、宅地内と雑り入ラッケを禁ずる旨を許可、本復興は、現地住宅まで切禁したみ本建築もそれまで約五十戸完成した。

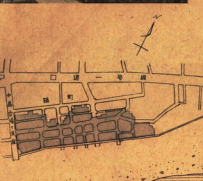
道路事業は、市員十一、本年八月の幹線街路を都市計画事業街路として、本年二月二十五日着手三月末に竣工した。この事業費総額五百三万円、半額の国庫補助を受けた。

又、他に市員六名又は四名の道路及び排水管工事に、更に、本年三月末まで完成、併行して進捗、建築に支障のないように、復興事業計画を国道に直結するために、線路土地区画整理の総面積は、約一万一千九百坪、民有地の総歩率は約十八％であった。

この区画整理の総事業費は、八百四十五万円うち三百九十一万円余は、県から補助を受けることとなった。

なお、唯今、予算百五十万円をもつて簡記都市計画事業街路を国道に直結するために、鉄路外への延長工事を行うつゝある。

内山県知事から御内帑金の伝達を受ける鈴木市長



御内帑金の下賜

天皇　皇后両陛下には、小田原大火に深く御同情を寄られ、「復興の資金の一部に」と神奈川県知事を通じて十一月三十日、御内帑金を下賜あらせられた。

鈴木市長、山後議長は十二月三日、宮内庁に出向し、御礼に祀候なし、更に三谷侍従長、福田侍従を訪ね、親しく面会し御礼の言上をして帰った。

消防陣の充実

大火の苦い経験によりその後の市政において、は設置後々の防火的施策がされた。消防陣の充実はその一つ。本年四月、二八〇万円をもつて、二千リットル入りタンクを有する逆消防車及び救命ネットを備える消車及び救命ネットを備える消車各一台を併せて加え、合の現有勢力となつた。

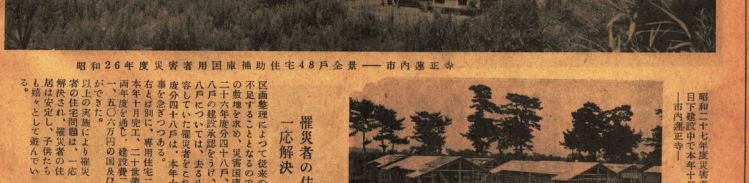
一方、本年七月、市消防署足柄出張所を設置、火災対策の万全を期することとなつた。

なお、消防団については本年四月、その改組を行うと共に、新たに小型ポンプ十台を配備し、機械力の一層の強化を図つた。

スッカリきれいに、広くなつた道路で遊ぶ子供たち

近く児童遊園地も

現在、焼跡には約二八〇坪の新らしい家が軒を並べている。電柱も一応整備によりその部民有地に建てられ樹の実殺と交通の安全に役立つている。近い将来には小坪の児童遊園地も工を起すことになつてより隣接の神社敷地と合せて二八〇坪の小公園ができ上る予定である



昭和26年度災害者用国庫補助住宅48戸全景——市内蓮正寺

罹災者の住宅問題は一応解決

区画整理によつて復興の住宅敷地の一割は、不足する為ることとなる所で、内蓮正寺に六戸の敷地を求め、災害国庫補助住宅として、昭和二十七年度分四十八戸、昭和二十七年度分四十八戸に、昭和二十六年度分四十八戸に、去る八月完工、仮設住宅に救容していた罹災者をそれに救容、昭和二十七年度分四十八戸の建設承認を受けた。

本年十二月末現在、二百戸の建設承認を受け、昭和二十七年度分四十八戸を含めて、二百戸を建設することになつた。

本年度は